## **気候と研究活動の関係**

京大太郎

## 本論文では、大学から出版される論文数と夏の暑さとの関係を明らかにした。公開情報をもとにして、大学から出版される論文の数と8月における平均最高気温を調べ、負の相関があることが分かった。また、論文数と大学の研究者数との間に正の相関があることが分かった。

# **はじめに**

## 地球温暖化の影響で、気温上昇が世界各地で観測されている。

## 夏における研究活動では、気温上昇に伴う影響が予測される。

本研究では、大学での研究活動と夏の暑さとの関係について明らかにする。

# **関連研究**

## 内田ら1は，クールビズ環境において扇風機を導入することにより、作業効率と温暖化対策の両者を最適化する室内環境基準を提案した。

## 宮津2は，ノーベル賞受賞数と気候との関係を明らかにした。

# **調査方法**

## 公開情報を手がかりにして大学の論文数と研究者数とを調査した。

## 公開情報を手がかりにして大学の８月に於ける平均最高気温の調査を実施した。

# **調査結果**

## 大学の論文数と研究者数とは正の相関を示した。

大学の論文数と平均最高気温とは負の相関を示した。

# **考察**

## 大学の規模が大きいほど研究業績は多い傾向にある。

## 夏の暑さが厳しいほど研究業績は少ない傾向にある。

## 大学の経営者は猛暑対策を真剣に検討する必要がある。

# **結論**

## 大学から出版される研究論文数は、夏の平均最高気温に影響を受けていることが明らかになったが、猛暑を我慢することには効能がないのか確かめたい。

**参考文献**

1. 内田匠子，亀田健一，村上 周三，伊香賀俊治，林立也『クールビズ環境における気流の効果が作業効率に及ぼす影響に関する現地実測』日本建築学会研究報告集 I，材料・施工・構造・防火・環境工学 (77)， 401-404，2006
2. 宮津 隆『20世紀のノーベル賞(自然科学)受賞者数に関する考察 : "風土の効果"と"文明の衝突"』帝京科学大学紀要 1，47-65，2005